

# ★クリスマス特別企画★

# イギリスのクリスマス

## A British Christmas

日本のクリスマス  
のイメージ  
は恋人達のイベ  
ントであり、ケ  
ンタッキーフラ  
イドチキンであ  
り、クリスマス  
ケーキだが、英  
国ではどうだろ  
うか？

クリスマスは古い英語で「クリス・マス」、救世主への祝い語源であるが、今と昔では様変わりしているに違いない。

英国でも日本と同様、定番の音楽が始まり、街や家の飾りもクリスマス仕様になって周囲をお祝いムードで盛り上げる。部屋には象徴のツリーが飾り立てられ、下に贈り物が置かれる。クリスマスのは赤と緑で、柊のようにつややかな葉と赤い実は飾り物やカードによく使われる。家族や友人にクリスマスカードを贈るのは年賀状のようなものと考えて欲しい。

ところで、英国料理にはろくなものがない、と言われるがそんなことはない。

クリスマスには、洋酒に漬

けた乾燥果物と香料のアンコを詰めたミンツパイに、これまた洋酒を入れて固めたフルーツケーキを食べる。クリスマスプディングは、乾燥果物に香料を加え型に流し蒸して作る。生地にコインを入れておき、当たれば幸運が来ると言われている。そして、これらを温かいモールドワインで流し込めば完璧な英国風クリスマスとなる。

またクリスマスに音楽は欠かせない。この時期有志の人々がキャロルを歌いながら巡回する。キャロルは宗教的な音楽だが、「きよしこの夜」などは一般にも知られており、人々の気持ちをひとつにしてくれる。最も伝統的なキャロルには、1918年から続くケンブリッジのキングスカレッジ合唱団による「9つの聖歌日課とクリスマスキャロル」がある。多くのキャロルは宗教的起源を持つが、中には「ジングルベル」など宗教色のない歌もあり、イエス様の代わりにサンタクロース、英国では「ファザーザークリスマス」の名で親しまれている人物が登場する。

サンタについては謎が多いが、4世紀のトルコで人々に贈り物をするのが好きだったというマイラの主教聖ニコラスがモデルと言われている。聖夜にトナカイの橇で世界中の「良い子」に贈り物を届けるため、サンタが忙しく空を飛び回っている頃、信者も信者でない人も教会を訪ない、キャンドルを灯して特別な夜を祝う。初詣に近いかもしれない。



英国で12月25日は、祝日である。会社も店も休みになり、王室一家も含め多くが教会へ出かけるが、家族団欒する人々も少なくない。子ども達が朝から靴下やツリーの

「クリスマスギフト」探し回る。賢者達から救世主への祝いの故事以来、大切な英国文化として定着している。最後に12月25日の会食について紹介しよう。

伝統的には焼いた七面鳥にポテトや野菜を添えたものを家族全員で頂く。

食後はうたた寝し、女王が英国連邦の人々に向けて発するBBC放送(英国国営放送)に飛び起きる。

日本ではクリスマスは12月25日の午前中で終了だが、英国ではそこから本番、翌26日は「ボクシングデー」の祝日で、さらに親類が集まって会食と贈り物交換が始まり、年明け2日の初仕事を迎えるまで続く。やがてツリーが1月5日の「公現の祝日(顕現日)」に片付けられ、やっと日常へと戻る。

英国のクリスマスは正月と似てなくはないが、家族や友人と主イエスの誕生を祝う祭主の愛を分かち合うところにこそ、その神髄はある。

(神戸マリナース・センター)  
司祭ポール・トルハースト